



野鳥の 不思議解明 最前線 #86

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2012

飛行するオオワシ *Haliaeetus pelagicus*
オオワシはあまり風車にぶつかりませんが、オジロワシより飛行時の下向き度合いが少なかったりする？ 撮影●吉岡俊朗

意外と鳥の視界は狭い？

～上方と下方が見えていないハゲワシ類～

複眼の虫ほどではないものの、鳥という視野が広いイメージがあります。空を飛んで上から俯瞰できるのでなおさらです。さらに猛禽類ともなる細かいところまで良く見えているイメージが加わります。それだけに、そのワシが風車にぶつかって事故死するのは不思議なことのように思えてしまいます。そこで、風車の回転が速くなると風車を認識できなくなる「モーションスミア現象」が起きるのだとか、獲物に集中してしまうとほかのものが見えなくなってしまうのだとか様々な説が出されてきました。ところが、猛禽類の視界はそもそも狭く、風車が見えていない可能性があるという研究がIBIS誌に掲載されたので紹介したいと思います。

この研究を行なったのはイギリスのMartinさんたちのチームです。シロエリハゲワシ *Gyps fulvus*、コシジロハゲワシ *G. africanus* を対象に、目や頭骨などの形態からどの部分が見えていて、どの部分が見えていないのかを測りました。そしてアマサギなどと比較しました。

すると、アマサギについては、ぼくらの持っている鳥のイメージ通り、視界が広く、ほとんどのところが見えていることがわかりました。ところがハゲワシについてみると、くちばしの先の方向を正面すると55°より上の範囲は見えないし、25°より下もまた見えていないなど、視界がかなり狭いことがわかりました。

では、実際ハゲワシが飛んでいる時にはどのよう

な方向を向いて飛んでいるのでしょうか？ ビデオ映像を使って分析すると、60°程度下を向いて飛んでいることがわかりました。地面にあるであろう死体を探しながら飛んでいるのでしょうか。すると、ハゲワシは55°よりも上方は見えないので、正面方向に風車があってもそれが見えないことになります。時々顔をあげて確認しない限りは風車が見えずに衝突…ということになってしまいそうです。

この視界の狭さはほかの猛禽類でも同様なのかMartinさんに問い合わせたところ、ノスリ類などいくつかの種についても計測したけれども、やはりハゲワシと同様に上方は見えていないということでした。

オジロワシも観察していると獲物を探して下を向いて飛んでいることが多いように思います。彼らも風車が見えていない可能性があるのでしょうか？ もしそうだとすると、海岸では下を見て飛んでいるけど、内陸では正面を向いて飛んでいるとか、獲物が海岸に落ちているときは下を見続けているけど、普段は下を見たり正面を見たりするなど環境や状況によって視線が変わるのでしょうか？ 今度、北海道に行った時に、ちゃんと観察せねばと思いました。

紹介した論文

Martin G.R., Portugal, S.J. & Murn, C.P. (2012) Visual fields, foraging and collision vulnerability in Gyps vultures. Ibis 154: 626-631